

看板が泣いている

Q 大村公園をはじめとする観光地の標識や案内板の老朽化は目を覆うばかり。早急な改善はもろろんのごと、市民上げての観光地総点検運動を提唱する。正面玄関のデジタル時計も泣いている。

A 市内には補修すべき案内板が多くある。総点検を実施し、要所については本年度でできる限り実施し、平成24年度には全面的に整備していきたい。デジタル時計については費用等の調査を指示している。

日岳公園と周辺地の開発促進策について

Q 三浦地区にある日岳公園のツツジ等の花を生かした更なる景観地開発促進の可能性は。また、その周辺部にモデル地区として長期滞在型貸農園事業を実施することについての見解は。

A 提案の内容は、農業振興に効果があると確信している。しかし、整備には多額の費用を要することから、国や県の補助金等を活用できないか調査・研究したい。地域の皆様と共にモデル地区

をつくることができれば幸いと思っ
ている。

大村市の農業再生と振興策

Q 農業基本条例施行に伴う基本条例の理念を基に、大村市の農業の再生、振興へとつなげるための取り組みについて尋ねる。

A 平成23年度中に基本計画を策定する予定である。現在、農業委員会や農協等と連携した農地の貸し借りの斡旋や、裏作などができる農地改良などの有効利用促進、集落営農組織による高齢化対策などに取り組んでいる。



教育・文化・スポーツ

通学路に速度制限を！

Q 小学校の前の道路で時速60km以上のスピードで走る自動車が見受けられる。学校付近の道路に速度制限や車両規制などを設け、登下校時における児童の安全・安心を確保できないか。

A 現在、学校付近の道路に速度制限や車両規制が行われているところもある。これらの制限や規制は県警本部の管轄となっており、市としては地域住民の要望があれば、大村警察署と協議することになる。

FIBAアジア女子バスケット大会の経済波及効果は？

Q FIBAアジア女子バスケットボール長崎／大村大会における本県及び大村市に与える経済波及効果はどの程度あるか。

A 大会期間中、約2万人の来場者が見込まれ、宿泊費、交通費、飲食費、娯楽費など、長崎県で7億7千万円程度、大村市で5億3千万円程度の経済波及効果が見込まれている。

特別転入学制度対象児童に通学補助金を！

Q 黒木小への特別転入学制度は利用者が減少している。遠距離児童生徒通学補助金を交付し、利用促進を図ることはできないか。また、黒木小を卒業後、萱瀬中へ進学した場合にも、通学補助金を交付するようできないか。

A 黒木小の特別転入学制度利用者に対しては、来年度から遠距離児童生徒通学補助金を交付するよう検討している。萱瀬中については、特別転入学制度を適用していない。

学校給食にもっと大村産の食材を！

Q 現在、学校給食において、米は100%、野菜などを含めると約50%が大村産となっている。食育の推進や農家の生産意欲の向上のためにも、更にこれを増やす取り組みは考えられないか。

A 大村産の食材の調達については、必要な供給量の確保、価格の統一や安定などの課題をクリアする必要がある。この5年間、現在のルートにおいて地産地消の成果を上げていることから、現状のまましていきたい。

